① 国立駅周辺整備事業の考え方

・国立駅周辺を歩きやすい空間とするため、道路の一方通行化を行い、歩道を拡幅します。また、国立駅周辺の交通体系を変更することで国立駅前の通過交通を低減します。
・なお、歩道整備にはユニバーサルデザイン※を取り入れ、だれもが安全・安心に通行できるようにします。これにより、にぎわいのある広くて快適な歩行空間が整備されます。

※ユニバーサルデザイン：しょうがいや年齢などにかかわらず多様な人々が利用しやすいように、生活環境などをデザインすること

・国立駅南口第１自転車駐車場を西側に移設し、拡充整備しました（平成 29（2017）年 10 月開設）

旧国立駅舎の再築
令和２（2020）年４月開業

北口駅前広場の再整備
（平成 31（2019）年３月完成）

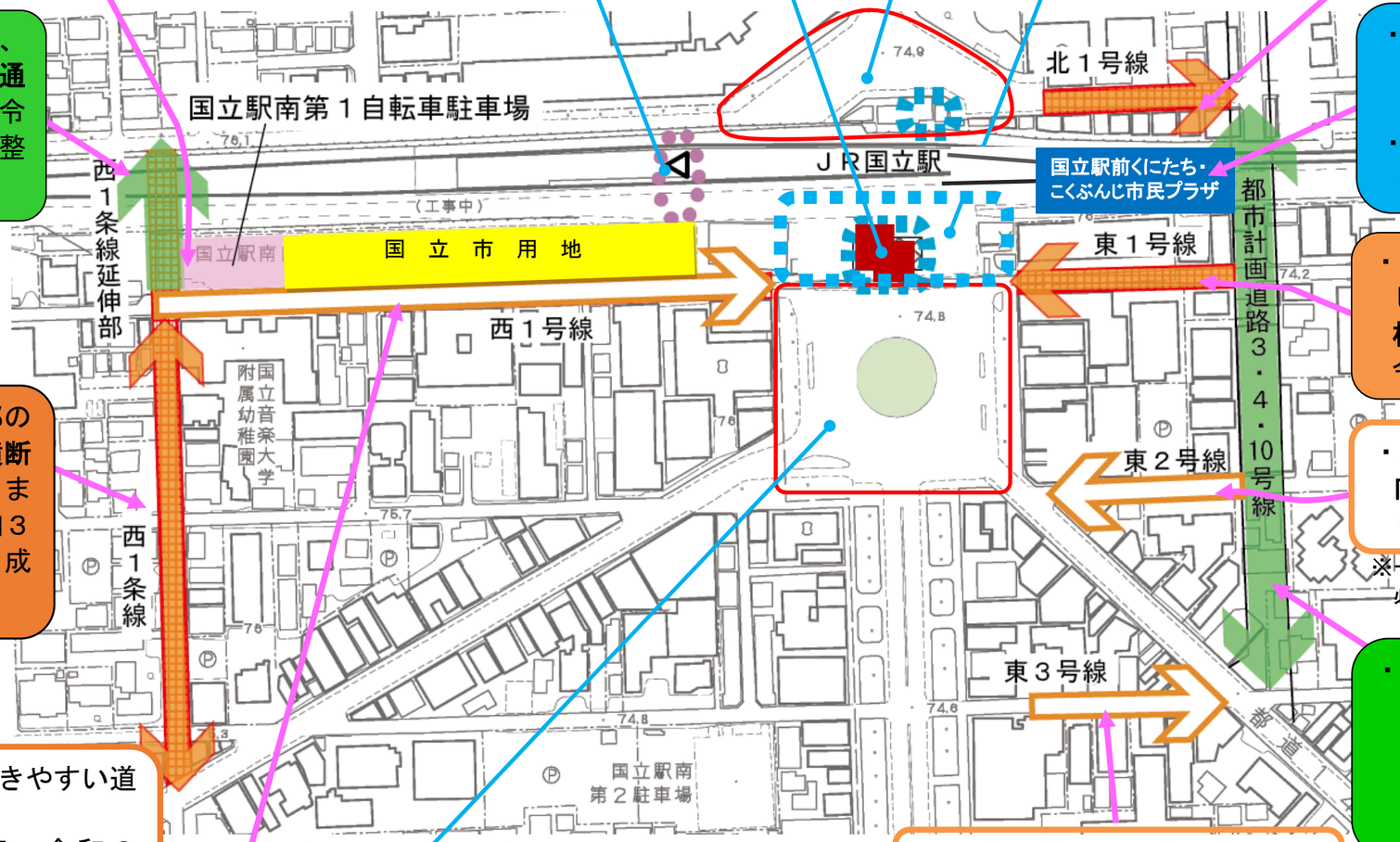
・相互通行を東向き一方通行化しました。**歩道を拡幅し、無電柱化を実施**します。
（工事中：令和３(2021)年度末完成予定）

国立駅における西口
改札の整備（ＪＲ東日本整備済）

南口での広場空間の
確保（ＪＲ東日本と協議中）

・交通の分散を図り、新たに**北向き一方通行で開通**しました（令和３（2021）年３月整備完了）

・高架下利用により**行政サービス施設、会議室などを整備**しました
・住民票の発行や図書の貸出・返却などを行います



・相互通行を西向き一方通行化しました。**歩道を拡幅し、無電柱化を実施**します。（工事中：令和７(2025)年度末完成予定）

・西１条線は延伸部の開通に伴って、**横断歩道等を整備**します（工事中：令和３(2021)年度末完成予定）

・**現在の東向き一方通行を、西向き一方通行化**することにより、通過車両を低減します

※一方通行の変更には、沿道住民の同意が必要になります

・**南北の通過交通の円滑化**を図り、歩行者・自転車が快適に通行できる空間を整備しました。（令和３(2021）年３月整備完了）

・**歩道を拡幅**し、歩きやすい道路とします。
（令和４(2022)年度～令和６(2024)年度工事予定）

南口駅前広場の
再整備

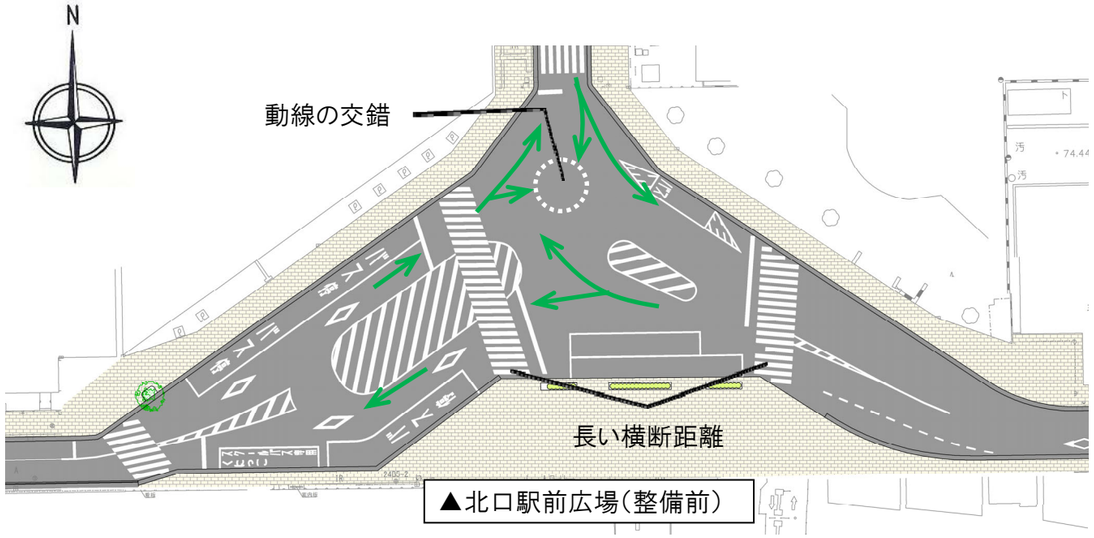
・**交通規制等**による歩行空間の改善を図ります

② 交通体系の変更（令和３年(2021 年) ３月２７日）

・1都市計画道路 3･4･10 号線が開通し、2東１号線が西向き一方通行化したこと等により、南口駅前広場の交通量が低減します。
・これにより、今後、円形公園や南口駅前広場を活用したイベント等の開催も期待できます

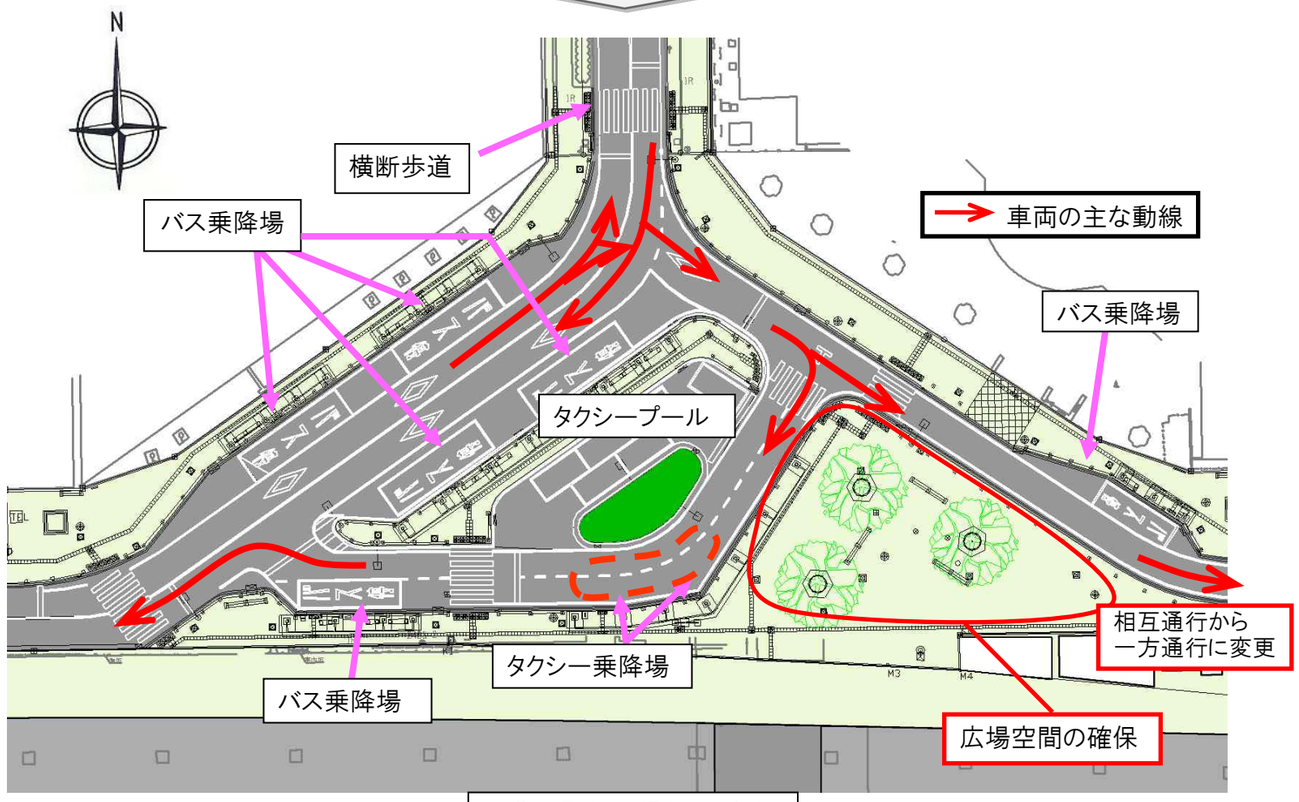
【数字で示した内容】
①：都市計画道路３・４・１０号線（南北の主動線）の開通　　②：西１條線延伸部（北向き一方通行）の開通
③：交通量の多い３・４・１０号線への信号移設　　④：西１條線の南北交通優先化（交通円滑化）による信号撤去
※図中の 1 と 2 の交通規制については、今後の沿線住民や交通管理者との協議により変更となる場合があります。

③ 北口駅前広場（平成 31 年(2019 年) 3 月完成）

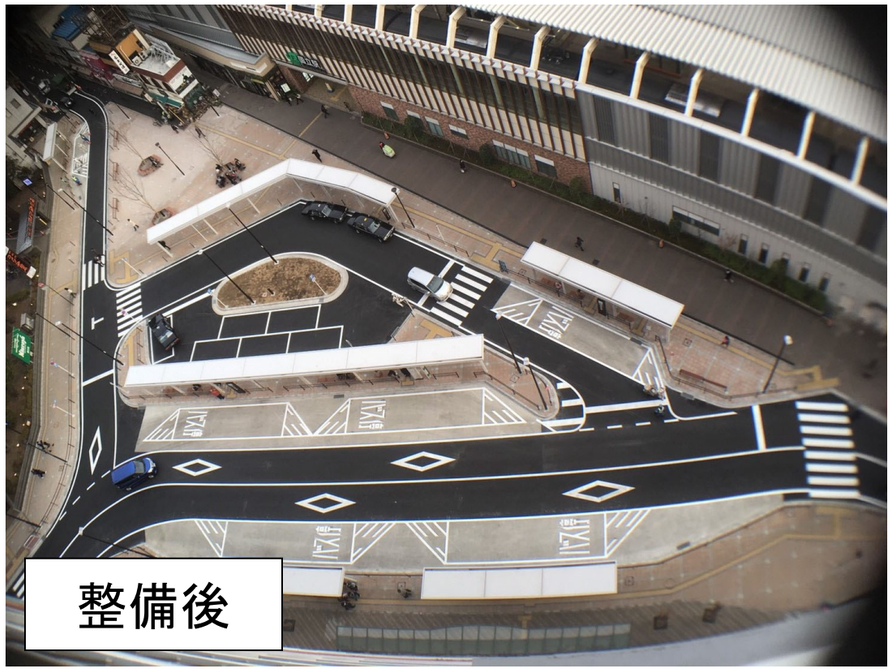


▲北口駅前広場（整備前）

・歩行者の横断距離を短くして、安全性を高めました
・バスの間隔、横断歩道からの離隔を充分に確保し、また、動線交錯を減らすなどして、車も安全に通行しやすいように整備しました
・南北通路北側に広場空間を設け、南口・北口駅前広場の一体的な活用を図ります
・広場空間を整備することにより、“くにたちらしい新たなにぎわい”を創出します



▲北口駅前広場（整備後）



④ 南口駅前広場整備の考え方

◆基本的な考え方

・ロータリーとしての交通体系を維持したまま、歩行者空間を拡充します
・道路上のタクシープールを路外にまとめるなどゾーニングを分け、動線交錯を減らすことで安全性を高めます
・バスバースを広場外周に配置し、バリアフリー化を図ります
・非日常的な歩行者空間としての南口広場や円形公園の活用を検討します。

◆旧国立駅舎の再築

・旧国立駅舎は、駅利用者の歩行動線の確保のため、南、西側に以前の位置よりそれぞれ約 4.9m、3.2m 移した位置に再築しました

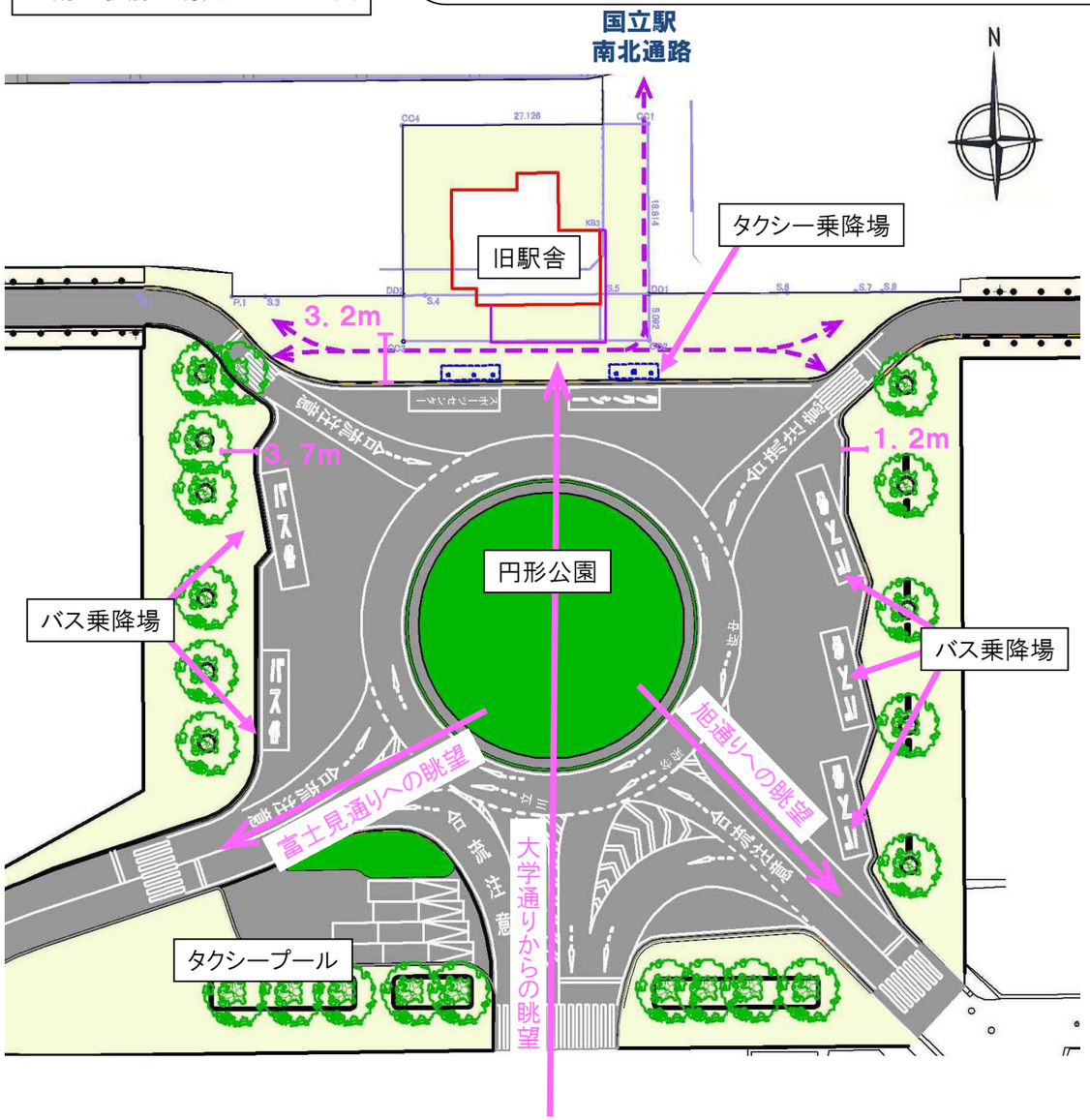
◆駅前広場の形状

・大学通り、旭通り、富士見通りの３路線の要となる駅前広場に面して旧国立駅舎を再築することにより、くにたち草創期からの歴史的な配置を回復します

◆円形公園の再整備

・交通管理者および交通事業者の協力は必要となりますが、将来は非日常的に円形公園も活用したイベントを行い、市民の皆さまにとって憩いの場となる空間として再整備します

▼南口駅前広場完成イメージ図



◆歩行空間の考え方

・北、東、西側にそれぞれ
約 3.2m、1.2m、3.7m
歩道空間を拡幅するとともに、バリアフリー化を図り、安全性を高めます

◆駅前広場の形状

・大学通りを中心とした左右対称のロータリーなど、くにたちのまちづくりの歴史を継承した広場とします

◆駅前機能の考え方

・現在の交通体系を維持したまま、歩行者空間を拡大し、だれもが安心して通行できる空間を創出します

※交通管理者協議により、タクシー乗降場の配置など内容が変更になる可能性があります

⑤ 国立駅南口における用地交換

- 平成29（2017）年に、ＪＲ東日本が国立駅南口に商業ビル2棟を建設する計画の報道がありました。この計画に対して、市民やまちづくり推進団体から再考を望む声が上がり市議会でも審議されました。

- 市とＪＲ東日本は、国立駅周辺のまちづくりに資する国立駅南口の開発の考え方について協議を重ねた結果、下図のように用地交換することを、令和3（2021）年3 月に合意しました。

2017年(平成29年)8月26日(土曜日)　読売新聞

国立復元駅舎 埋没を懸念

JR両隣に4階ビル計画

シンポで異論相次ぐ

2020年をめどに「赤い三角屋根」の旧駅舎が復元される予定のJR国立駅南口の再開発について意見交換するシンポジウムが26日夜、国立市内で開催され、JR東日本が、復元後の三角屋根の建物の両隣に4階建ての商業ビルを建設する計画であることが明らかにされた。

(赤い三角屋根が特徴だった旧国立駅舎（2000年7月撮影）)

再開発後の国立駅南口のイメージ

復元される旧駅舎　商業ビル　商業ビル　29m　12m　6.5m　10m

▲ 平成29(2017)年8月26日　読売新聞

2021年(令和3年)3月13日(土曜日)　読売新聞

旧国立駅舎周辺 広場に

JR東と市 合意 所有地を等価交換

JR国立駅を巡り、旧国立駅舎周辺の広場化を目指す市と、駅西側の市有地を等価で交換する合意が両者が26日、わかった。計画では建設される予定の旧駅舎は活用される。一方、西に1棟のビルを建てる見込んでいた。一時、市が「赤い三角屋根」が特徴だった「赤い」舎が挟まれ、地元

旧国立駅舎両隣にある土地が、JR東日本から国立市の土地になる

市の駐車場と駐輪場の土地はJR東日本の所有地になる

▲ 令和3(2021)年3月13日　読売新聞

平成29(2017)年2月	国立市が、「国立駅南口複合公共施設整備基本計画」を策定
平成29(2017)年8月	JR東日本が、旧国立駅舎(当時は、再築予定)の東西に4階建ての商業ビルを計画しているとの新聞報道
平成30(2018)年2月	国立市まちづくり推進四団体協議会が、7,442筆の署名が付された「JR東日本株式会社による国立駅南口開発に関する陳情」を市議会に提出
平成30(2018)年4月	国立市とJR東日本は、協議を開始
令和3(2021)年3月	国立市とJR東日本は、「国立駅南口における用地交換にかかわる合意書」を締結
令和3(2021)年3月	国立市は、市議会建設環境委員会にて報告をするとともに、市報くにたち3月20日号の1面で用地交換を合意したことを掲載

3月20日(第1264号)　市報くにたち

☎042-576-2111(代)　FAX042-576-0264

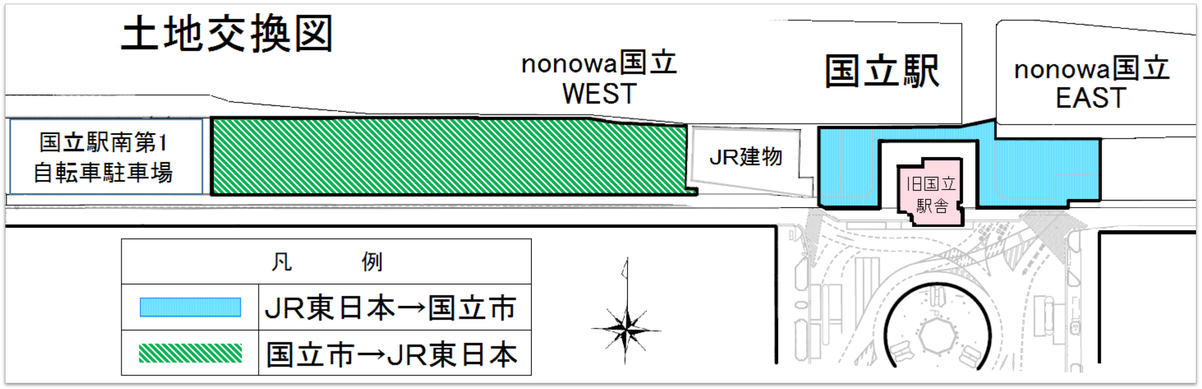
3月27日(土)にJR国立駅周辺の交通体系が変わります

～都市計画道路の完成により駅の南北のアクセスがより便利に～

国立駅南口における用地交換について

(仮称)旧国立駅舎東西広場および市道公園の整備について

◀市報くにたち
令和3（2021）年3月20日号

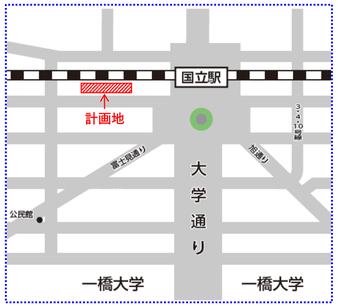


○ 交換後の土地利活用の方針

※「国立駅南口における用地交換にかかわる合意書（令和3（2021）年3月）」より

- 市は、取得用地を歩行者空間の創出等のための広場空間として利活用します。
- JR東日本またはJR東日本の関連会社は、取得用地について、隣接する所有地と合わせて建物高さ31m以下の商業施設棟および賃貸住宅棟を計画します。
- 市は、子育て支援の公共機能を整備するために、賃貸住宅棟内の約700㎡を賃借します。
- 商業施設棟敷地内に、国立駅nonowa口改札に通じる連絡通路を新たに整備します。
(現在の西連絡通路と東連絡通路は廃止します)

⑥ 国立駅南口子育ち・子育て応援施設の整備



ＪＲ東日本グループが建設を進めている賃貸住宅の一部分を市が賃借して、子育て支援と次世代の育成に資する公共機能を整備します。

- 子ども向け公共施設の空白地帯であり、たくさんの人が集まりやすく学生の利用も多い国立駅の周辺には、子どもの遊べる場所が以前から望まれていました。
- 「国立駅南口複合公共施設整備基本計画」を継承する形で、子育て支援機能を持つ公共施設の整備に向けて、コンセプトや導入機能等について方向性をまとめた「国立駅南口子育て支援施設整備方針」を令和 4（2022）年 2 月に策定しました。
- 市の重要施策である「幼児教育の推進」につながる拠点となることを目指します。

令和４（2022）年２月	「国立駅南口子育て支援施設整備方針」を策定
３月～４月	「基本設計・実施設計 業務委託」の公募型プロポーザルによる事業者選定（24事業者からの提案あり）
８月～	実施設計を開始
令和６（2024）年度	工事開始予定
令和７（2025）年度	開館予定

赤ちゃんから中高生までの子どもたち、
子どもと一緒に笑顔になりたい大人たち、
駅の近くだし、気軽に寄りたい

子どもステーションくにたち

もっとくにたちが好き

子育ての手助けをしてもらえる、
学べる、集える、安心できる場所

▲整備方針における施設コンセプト

国立のみんなで育ち育てる「子らぼステーション」

このまちで生まれ育った楽しい記憶を紡ぐ場所として、地域とつながり、多世代が関わる場所へ
国立市の掲げるソーシャル・インクルージョンの理念に基づき、誰もが使いやすい公共施設へ

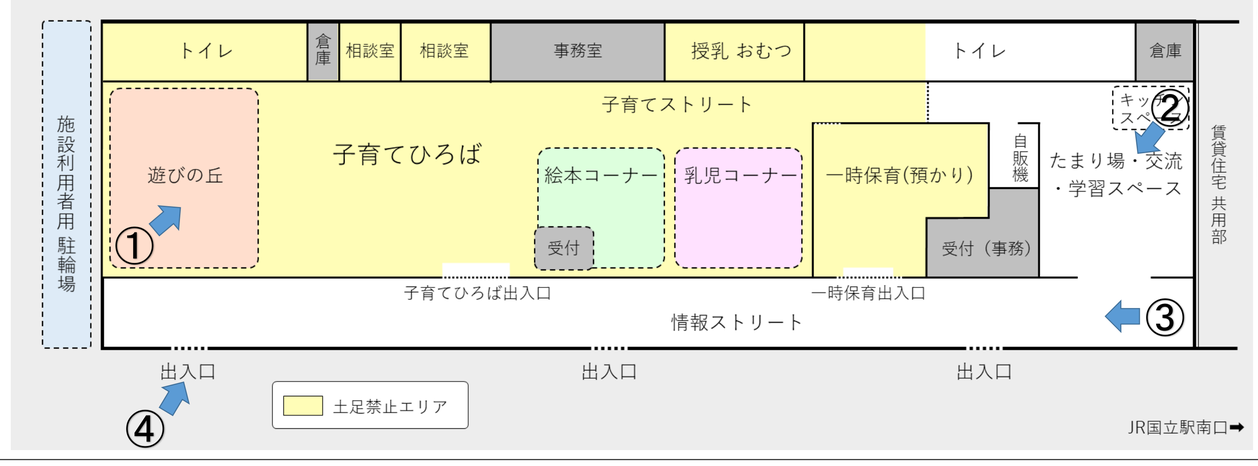
（1）広場としての「子らぼステーション」
様々な世代が子育てをきっかけに集まる広場

（2）みんなで「育ち、育てる」まちの駅
国立の未来を育て、自らも育っていく公共施設

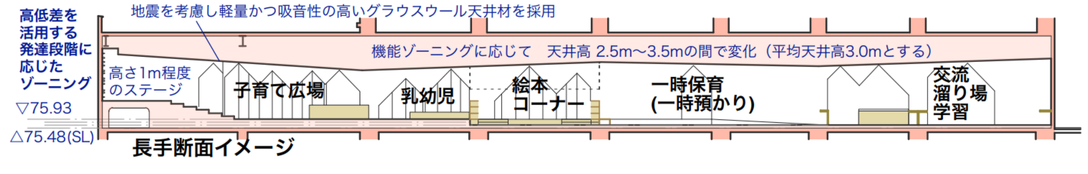
（3）子どもの施設ならではの配慮
安全で見通しの良い明るい空間と多様な居場所

（4）ランニングコスト低減と合理的な環境設計の両立
素朴でシンプルな素材と優しい環境づくり

▲基本設計のコンセプト



▲イメージパース

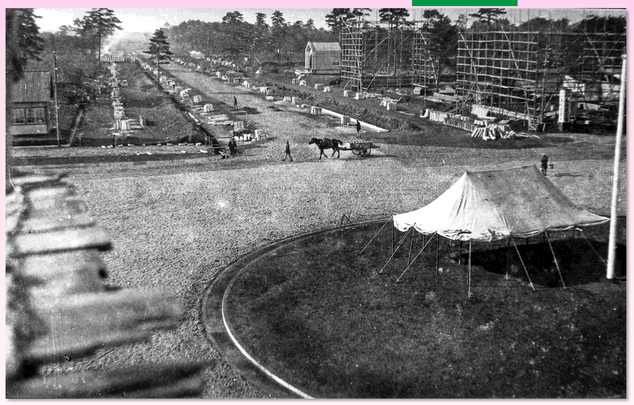


長手断面イメージ

国立駅南口の変遷

建築中の国立駅舎と箱根土地仮事務所　大正15(1926)年
明窓浄机館所蔵(中島陟氏資料)

奥には建築中の国立駅舎があり、現在の円形公園の位置には盛り土の上に平屋の建物があります。これは国立大学町を開発・分譲した箱根土地株式会社が国立に設けた仮事務所でした。

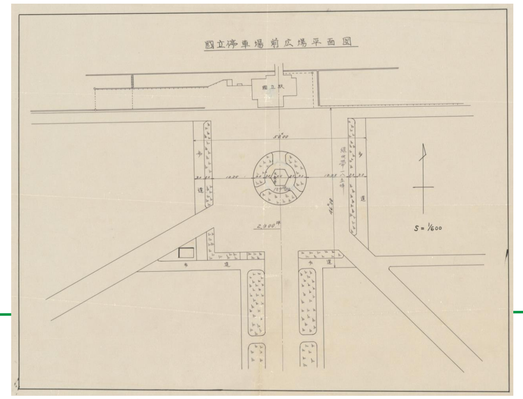


造成中の大学通り　大正15(1926)年　　明窓浄机館所蔵(中島陟氏資料)

国立駅開業前に円形公園の位置にあった仮事務所の建物と盛り土が撤去されているのが分かります。駅開業当時、この場所は円形の広場とされていました。

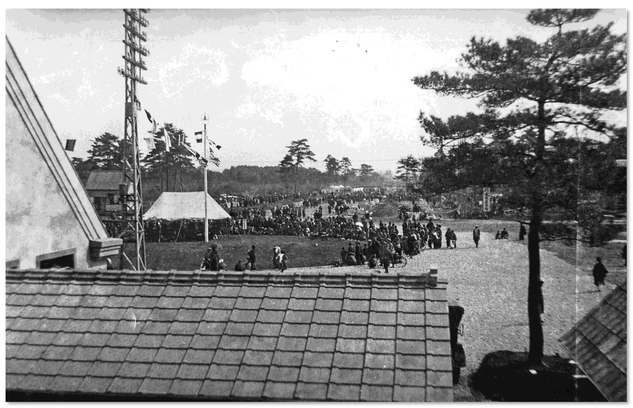
国立駅前　大正15(1926)年　　くにたち郷土文化館所蔵

大正15（1926）年
国立駅開業



国立停車場前広場平面図　大正15(1926)年頃
国立市所蔵(プリンスホテル旧蔵)

中央に水禽舎を配して円形の広場空間を設け、広場全体の外縁部に歩道をめぐらすという計画を示しています。この計画案が実施されて、国立駅の駅前広場が形づくられたようです。



国立駅開業祝賀会　大正15(1926)年　　明窓浄机館所蔵(中島陟氏資料)

国立駅開業日(大正15年4月1日)の後4日まで開催された祝賀会では、余興会場にも利用されており、中央のテントで催されたイベントに多くの人が集まっています。

水禽舎を見る人々　昭和2(1927)年　　明窓浄机館所蔵(中島陟氏資料)

国立駅が開業して間もなく、現在の円形公園のところに『水禽舎』が設置されました。

金属製とみられる大きなケージの中では、水鳥たちが飼育されていました。

国立駅前の人気スポットとして多くの人々を楽しませた水禽舎でしたが、太平洋戦争の影響により、水鳥の飼育は中止されたようです。

昭和25（1950）年

国立会によって整備された円形公園　昭和25(1950)年頃　　明窓浄机館所蔵

終戦後の円形公園は荒廃していたようですが、国立地域の住民組織である「国立会」が寄付を募り大修理をしています。
左の写真は、国立会が整備を終えた円形公園を撮影したものと考えられます。

昭和30（1955）年

円形公園　昭和30(1955)年頃　　くにたち郷土文化館所蔵

昭和30年代前半までは、駅前といえどもまだ自動車等の通行は少なく、円形公園は憩いの場としての機能を保持していたようです。昭和30年代後半になると次第に歩車道の分離が進み、円形公園の周辺が車道専用となっていきます。

消防パレード　昭和45(1970)年　　くにたち郷土文化館所蔵

昭和45(1970)年の11月に行われた消防パレードの様子です。円形公園の池の水を利用して消防車の放水デモンストレーションが行われたようです。

昭和42（1967）年

「祝国立市制」看板の立つ円形公園　昭和42(1967)年　　くにたち郷土文化館所蔵

昭和42(1967)年の円形公園を確認すると、まだベンチやゴミ箱が設置されていますが、昭和45(1970)年の新聞では、円形公園に人が立ち入れない状況になっていることが報じられています。

国立駅前の様子　平成15(2003)年頃

国立駅前の様子　平成29(2017)年

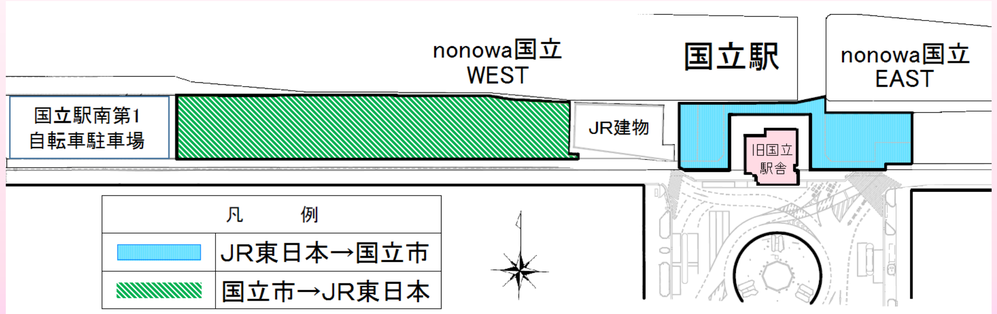
平成18（2006）年

JR中央線の立体高架化工事に伴い国立駅舎の解体

令和2（2020）年

旧国立駅舎再築

国立駅前の様子（東西広場用地の期間限定開放時）　令和3(2021)年4月



国立市とJR東日本は、国立駅周辺のまちづくりに資する国立駅南口の開発の考え方について協議を重ねた結果、上図の範囲について用地交換することを、令和3年3月に合意しました。

現在